

## 補助プリント

次の(1)～(5)の文章を読んで、南北朝内乱に関する下記の設問A・Bに答えなさい。

- (1) 南北朝内乱の渦中のこと、常陸国のある武士は、四男にあてて次のような譲状をしたため、その所領を譲った。  
長男は男子のないまま、すでに他界し、二男は親の命に背いて敵方に加わり、三男はどちらにも加担しないで引きこもってしまった。四男のおまえだけは、味方に属して活躍しているので、所領を譲り渡すことにした。
- (2) 1346年、室町幕府は山賊や海賊、所領争いにおける実力行使などの暴力行為を守護に取り締らせる一方、守護請や兵糧米と号して、守護が荘園や公領を侵略することを禁じた。
- (3) 1363年のこと、足利基氏(注1)と芳賀高貞(注2)との合戦が武蔵国で行われた。高貞は敵陣にいる武蔵国や上野国の中小の武士たちを見ながら、次のように語って味方を励ましたという。  
あの者どもは、今は敵方に属しているが、われわれの戦いぶりによっては、味方に加わってくれるだろう。
- (4) 1373年、九州五島の武士たちが「一味同心」を誓った誓約書に、「このメンバーの中で訴訟が起きたときは、当事者との関係が兄弟・叔父甥・縁者・他人などのいずれであるかにかかわらず、是非の審理を尽すべきである」と書かれている。
- (5) 1400年、信濃の国人たちは、入国した守護に対して激しく低抗してついに合戦となり、翌年、幕府は京都に逃げ帰っていた守護をやめさせた。

注1) 足利基氏：当時、鎌倉公方であった。

注2) 芳賀高貞：1362年9月、関東管領に上杉房顕が就任するなかで、鎌倉公方の足利基氏が宇都宮氏綱が有していた越後の守護職を奪って上杉房顕に与えた。氏綱の守護代として越後国に入部していた芳賀高貞と高家は、この処置に激怒し、越後国内で上杉軍と戦ったが完敗した。

### 設問

南北朝期の地方社会における国人について明らかにし、守護の入部に対して国人らはどうのように対応したかを説明しなさい。